
リーディングの指導(2)

— 読解過程を重視した指導 —

佐藤 敏子

1. 目的

読解力を向上させる1つの要素として、音読力があげられる。既に筆者は、つくば国際大学平成6年度入学学生を対象とした読解力に関する調査を行い、その誤答分析の結果から「読解力の伸長を図る授業形態は読解過程を重視した授業である」ということを明らかにした。(佐藤敏子「リーディングの指導(1)―読解力と音読―」)

本稿では、授業を構成している活動を次のような内容に分類し、

- ①スピード・リーディング・トレーニング
- ②教材の一斉通読
- ③授業者の意味のまとまりを意識したモデル・リーディング
- ④内容に関する英問英答

その活動を学習者がどのように意識して参加し、評価しているかを調査し、学習者がどのような読解過程を通して「英語を理解している」のかを明らかにしようとするものである。

2. 方法

(1) 被験者

調査対象は埼玉県にある4年制大学の3年生65名である。なお学生の専攻は心理学、教育学などで、英語専攻の学生は含まれない。

(2) 調査内容

4つの活動〈①スピード・リーディング・トレーニング②教材の一斉通読③授業者の意味のまとまりを意識したモデル・リーディング④内容に関する英問英答〉を、特に効果を意識させた調査内容とするために、次の7項目に関する内容を文章化した。(資料1)

- ・スピード・リーディング・トレーニングと音読力
- ・スピード・リーディング・トレーニングと読解のスピード
- ・一斉通読と長文に対する慣れ
- ・意味のまとまりを意識した音読と読解

- ・音読と読解力
- ・英問英答と読解
- ・日本語に訳さない読解

学習結果を判断するために、前期終了後に読解に焦点をあてたテスト（満点は80点）を実施した。
 (資料2)

3. 結果

(1) テスト結果

資料2のテスト結果をヒストグラムにすると図1のようになる。

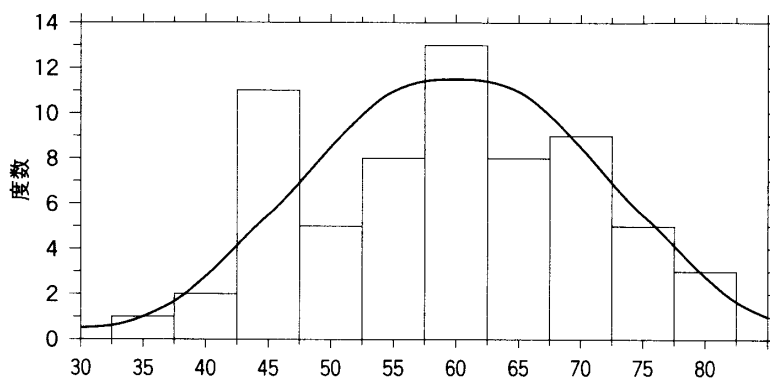


図1 前期終了後のテスト結果のヒストグラム

(2) 資料1に関する調査結果

資料1の調査結果を項目ごとにヒストグラムに書くと、図2から図10のようになる。

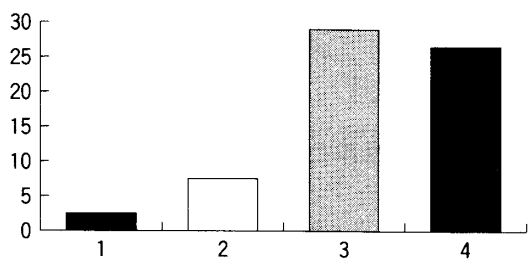


図2 項目1のヒストグラム

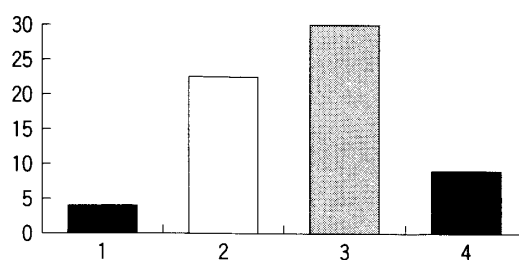


図3 項目2のヒストグラム

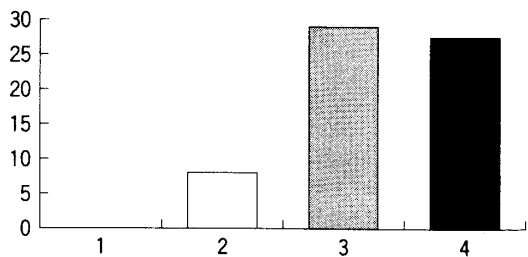


図4 項目3のヒストグラム

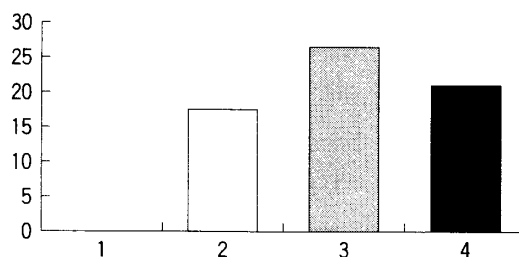


図5 項目4のヒストグラム

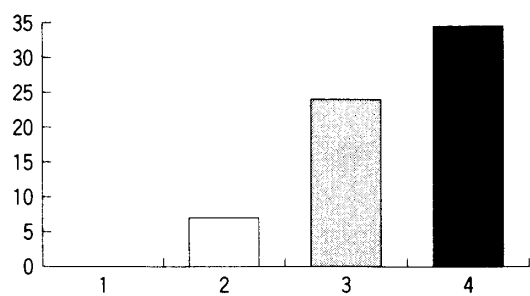


図6 項目5のヒストグラム

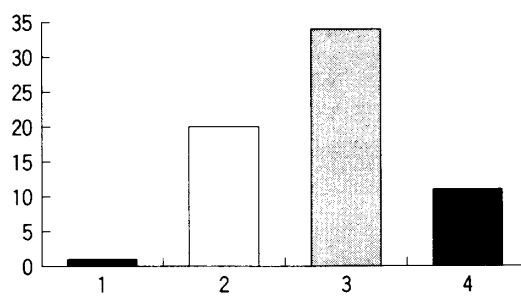


図7 項目6のヒストグラム

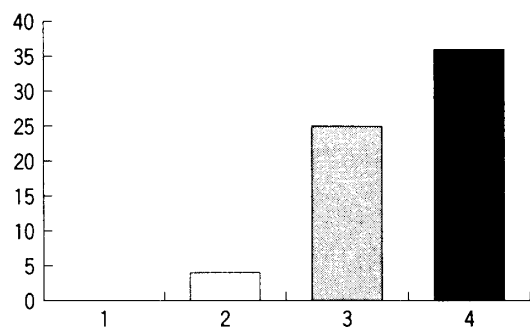


図8 項目7のヒストグラム

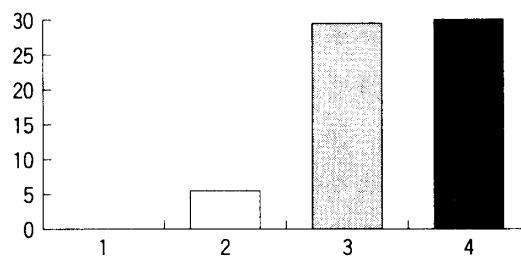


図9 項目8のヒストグラム

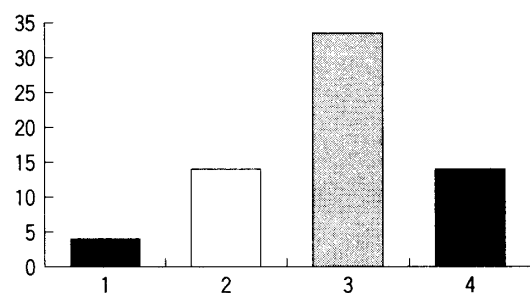


図10 項目9のヒストグラム

回答のおおまかな傾向は、「1—全く当てはまらない 2—どちらかといえば、当てはまらない」の否定的な傾向より、「3—どちらかといえば、当てはまる」と「4—よく当てはまる」という肯定的な回答が多いと言える。1または2と回答した学生をB群とし、3または4と回答した学生をA群とした度数分布表は以下の通りである。

表1 項目1の度数分布

A 群	56
B 群	9

表2 項目2の度数分布

A 群	39
B 群	26

表3 項目3の度数分布

A 群	56
B 群	9

表4 項目4の度数分布

A 群	48
B 群	17

表5 項目5の度数分布

A 群	58
B 群	7

表6 項目6の度数分布

A 群	44
B 群	21

表7 項目7の度数分布

A 群	61
B 群	4

表8 項目8の度数分布

A 群	59
B 群	6

表9 項目9の度数分布

A 群	47
B 群	18

(3) 資料1の調査結果と「要旨把握力」との関係

資料1を使用した調査による学習者の得点は、評定尺度法による得点のため間隔の概念に乏しく、1.5という中間回答は実在しない。そのため間隔尺度とみなすことは難しいが、数値上の比較のため以下のような処理を行った。

資料2の問題の中で、1(2)は英語のパラグラフの中の main idea を探す問題である。この問題が正解であるということは、問題の英文の要旨がつかめていると考えてよい。被験者の中から、その正解者を達成群、誤答者を未達成群とし、資料2の9項目の評定得点の平均値をそれぞれに算出する。さらに被験者全体の平均値を出し、グラフに描いたものが、図11である。

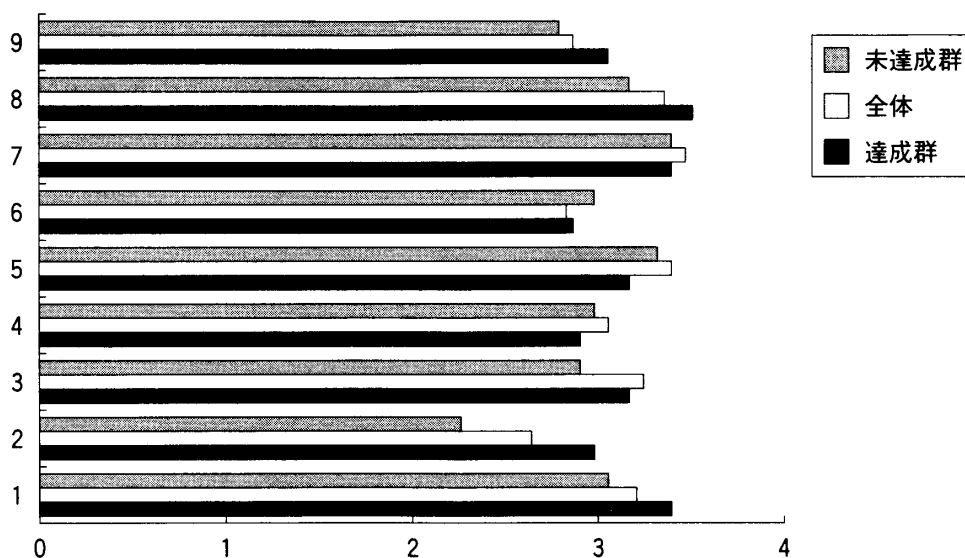


図11 項目別平均値の比較

このグラフから、達成群が未達成群より高得点で、さらにその間に全体の平均が入る項目を取り出すと、次の4項目になる。

- (1)スピード・リーディング・トレーニングは音読の練習になります。
- (2)スピード・リーディング・トレーニングは読解のスピードをつけるのに役に立ちます。
- (8)英問英答は英文を英語のまま理解するのに役に立ちます。
- (9)英問英答により日本語に訳さなくても英文は理解できます。

このことは(1)(2)(8)(9)の学習方法が音読、読解、直読直解、それぞれの learning strategy となっていると言える。

(4) 資料1の調査結果と資料2の得点との関係

資料1の調査9項目で、1から4までそれぞれ回答した被験者の資料2のテスト結果の平均値を出し、分散分析をおこなった。その結果 $p < .10$ となったのは項目2と項目3である。

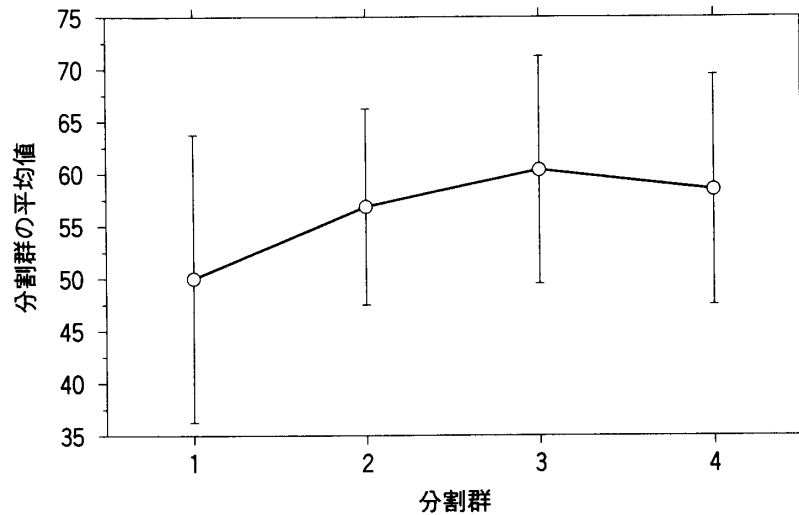


図12 項目2の交互作用折れ線グラフ

表10 項目2の分散分析表

	平均値の差	棄却値	p 値	
1,2	-6.386	9.660	.2738	S
1,3	-9.817	9.459	.0881	
1,4	-7.750	10.679	.2301	
2,3	-3.430	4.988	.2552	
2,4	-1.364	7.032	.7471	
3,4	2.067	6.754	.6111	

項目2「スピード・リーディング・トレーニングは読解のスピードをつけるのに役に立ちます」に関して、表10より「1—全く当てはまらない、3—どちらかといえば、当てはまる」を選んだ被験者間において、読解力の平均の差は有意傾向であった。 $(0.05 < p < 0.1)$ すなわち、この学習方法の効果を実感している被験者の方が読解のスピードがあがっている。

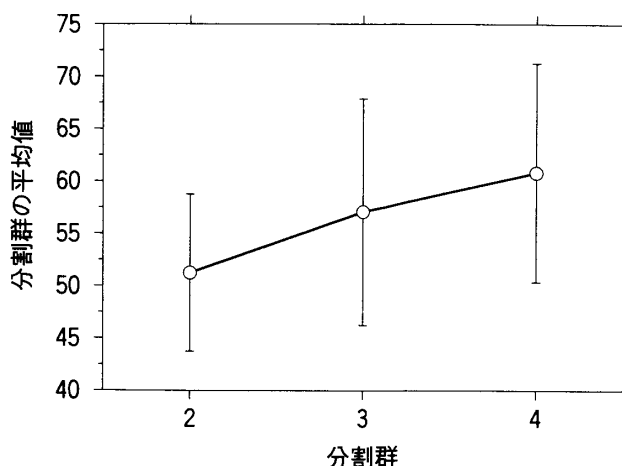


図13 項目3の交互作用折れ線グラフ

表11 項目3の分散分析表

	平均値の差	棄却値	p 値	
2,3	-5.797	6.605	.1478	S
2,4	-9.593	6.662	.0192	
3,4	-3.796	4.629	.1759	

項目3「授業の最初に、教材を通して読むことは、長文に慣れさせます」に関して表11より、「2—どちらかといえば、当てはまらない、4—よく当てはまる」を選んだ被験者間において、読解力の平均の差は有意であった。(0.01 < p < 0.05) すなわち、この学習方法の効果を実感している被験者の方が長文に対する抵抗が少なく、学習が進んでいると言えよう。

さらに傾向を明らかにするために、1または2の回答者をB群、3または4の回答者をA群として分析をおこなった。その結果、読解力の平均値の差が有意であったのは項目3であった。(0.01 < p < 0.05)

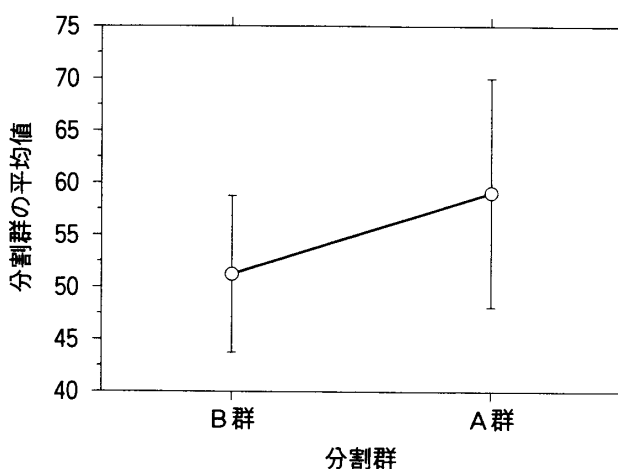


図14 項目3の交互作用折れ線グラフ

表12 項目3の分析表

	平均値の差	棄却値	p 値	
A 群, B 群	-7.627	6.258	.0461	S

4. 考察

3種類の分析(1)学習効果意識調査と要旨把握力(2)学習効果意識調査と読解力調査(3)A群・B群分類による学習意識調査と読解力調査より抽出された learning strategy は次のようになる。

- ・音読が上達するためにはスピード・リーディング・トレーニングが有効である。
- ・読解のスピードを上げるためには、スピード・リーディング・トレーニングが有効である。
- ・教材の通読は長文に慣れさせる（パラグラフ毎ではなく毎回全文通して読ませる）。
- ・英問英答により読解が進む。
- ・英問英答により日本語訳をしない英語の読解を体験できる。

瀧口（1995：11）は従来の「読む」授業に欠けている点を4つあげている。

- ①音声の欠如
- ②発問の欠如
- ③集団の欠如
- ④表現の欠如

ここでは主に①②に関する問題を検討していく。

①に関しては昨年度の調査結果ですでに報告済みであるが、今回の調査でも「音読」の効果は「読解」のスピードにまで影響があると、学習者は回答している。ネイティブ・スピーカのようなスピードで音読を練習すれば、読解のスピードも早くなるという学習実感である。

英語の読解というと、単語や文の意味を日本語に置き換えて終わりになることが多い。果たして、この活動だけで、英語の読解指導と言えるのであろうか。田近（1995：23）は「読解とは、読み手が、明示的にあたえられた手がかりを中心に推論し、全体の意味を統合することであり、読み手は常に自分の理解が適切かどうかをテキストに照らしてモニターし続けるのである。この読みの態度を常日頃から育てることが読解指導として今後なされなければならないのではないだろうか。」と提案している。では、このような活動を具体化するには授業の中でどのような活動を確保していけば良いのであろうか。それは、瀧口のあげる「発問」であり、今回の調査で被験者が学習効果を実感している「英問英答」である。授業者の発問は読解の手がかりである。学習者はその発問の答えをテキストの中から見つけたそうとする。その活動が読解活動の重要な部分である。さらに発問に対する答えが適切であるか、前後の読みとりをしながら、モニターしていく。学習者の次のような感想が読解活動の展開を明らかにしている。

- ・スピード・リーディング・トレーニングをすることによって、英語の口慣らしができて、テキストを読むことにも抵抗が少なくなり、実際に読むスピードもあがったと思う。また、英問英

答の形式をとることによって予習の段階であやふやだったところも英語で理解できたと思う。

- ・ノートに訳をいちいち書かなくても、先生の英問に答えようと努力することで自然に内容が理解できるのでびっくりした。

なおこの2人の学習者は、資料2の読解力テストのパラグラフの中から main idea を探す問題の正解者の中の2人で、達成群に入る学習者である。特に前者は抽出された learning strategy を意識し、さらに田近の指摘している読解活動を授業の中で行っている。

以上、今回の調査結果の考察より、「読解過程を重視したリーディング指導の中心活動は、英問英答を中心にした英語で進める授業」であるといえる。今後の課題としては、どのような発問が学習者の読解を促進するのかということになる。

(さとう・としこ 産業情報学科)

参考文献

1. Hughes, A. 1989 *Testing for Language Teachers*. Cambridge University Press
2. Gregory, T. 1991 『英語スピード・トレーニング教本』大修館
3. Kitao, K. and Kitao, S. K. 1990 *Understanding English Paragraphs*. 英潮社
4. 小池生夫監修 1994 『第二言語習得研究に基づく最新の英語教育』大修館
5. 小林祐子 1992 「読解過程の指導に向けて」『英語音声学と英語教育』開隆堂
6. 松村幹男他 1984 『英語のリーディング』大修館
7. 佐藤敏子 1993 「コミュニケーションを目指したリーディング指導」筑波大学学校教育論集第16巻
8. 佐藤敏子 1995 「リーディングの指導(1)」つくば国際大学研究紀要第1号
9. 高梨庸雄・高橋正夫 1987 『英語リーディング指導の基礎』研究社
10. 田近裕子 1995 「読みの困難点」『英語教育1月号』大修館
11. 瀧口優 1995 「リーディングとコミュニケーション」『英語教育1月号』大修館
12. 田中敏・山際勇一郎 1994 『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』教育出版
13. 谷口賢一郎 1992 『英語のニューリーディング』大修館
14. 津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ編 1992 『学習者中心の英語読解指導』大修館
15. Wallace, C. 1992 *Reading*. Oxford University Press

資料1

授業設計のための調査

この調査はよりよい授業を造っていくための調査です。よく考えて教えてください。

回答の方法は、各質問に

- 1—全く当てはまらない
- 2—どちらかといえば、当てはまらない
- 3—どちらかといえば、当てはまる
- 4—よく当てはまる

1から4の番号で教えてください。ただし(10)は自由記述式です。

- (1)スピード・リーディング・トレーニングは音読の練習になります。
- (2)スピード・リーディング・トレーニングは読解のスピードをつけるのに役に立ちます。
- (3)授業の最初に、教材を通して読むことは、長文に慣れさせます。
- (4)そのスピードが少しずつあがっていくのを実感できます。
- (5)先生が教材を、ゆっくり意味のまとまりを意識して読むのを聞くと、自分が読解するときの役に立ちます。
- (6)教材の音読は読解の役に立ちます。
- (7)内容の英問英答は読解の役に立ちます。
- (8)英問英答は英文を英語のまま理解するのに役に立ちます。
- (9)英問英答により日本語に訳さなくても英文は理解できます。
- (10)この授業に関して「ためになったこと」「改良してほしいこと」を書いてください。

(1995.7.21) 出題者 佐藤敏子

- 1 下の英文を読んで、問いに答えなさい。
 (1) 英語で答えなさい。
 (a) Is the writer discussing all the types of clubs in the United States in the paragraph?
 (b) What do service clubs do?
 (c) What are examples of social clubs?
 (d) What do children do in Boy Scouts and Girl Scouts?
 (e) What are self-help clubs for?
 (2) 下の英語の文の中で、筆者が一番言いたいことを表している文を探し、その番号を書きなさい。

Clubs in the United States

¹ People in almost every country enjoy joining clubs, and Americans are no exception. ² Clubs in the United States can be divided into several types. ³ In this paragraph, I will discuss a few of them. ⁴ One type is service clubs. ⁵ Members of service clubs are involved in community service. ⁶ Some service clubs include the Elks Lodge, the Lions Club, and the Shriners. ⁷ Another kind of club is social clubs for couples. ⁸ These are places that have facilities where members can go to eat and dance. ⁹ Two examples are the Eagles and the Moose Lodge. ¹⁰ A third type of club is the sports club. ¹¹ Golf clubs are very common. ¹² Tennis clubs have also become popular in recent years. ¹³ Children also have their own clubs. ¹⁴ For example, Boy Scouts and Girl Scouts are clubs in which children can learn skills and participate in useful activities. ¹⁵ The last type of club that I am going to discuss is the self-help club. ¹⁶ These are clubs for people who have particular problems. ¹⁷ One of the best known is Alcoholics Anonymous. ¹⁸ Other self-help clubs help people lose weight or stop smoking.

- 2 次の英文を読んで、現在アメリカでWashingtonにちなんで行われたり、見聞する事を書きなさい。

Because of his leadership during this important period, George Washington is probably one of the most respected Americans in US history. His birthday is celebrated on the third Monday in February. His portrait is on the one-dollar bill and the quarter. In addition, the capital of the US is named after him. The Washington Monument, which is located in the capital, honors him. And counties, towns, and streets all over the United States are named after this great national leader.

- 3 LincolnのGettysburg Addressは何のためにされたのか、またなぜ有名になったのかを、次の英文にそれぞれ書きなさい。

On November 19, 1863, a ceremony was held where the battle had taken place to set aside land for a national cemetery. Lincoln and Edward Everett, a famous speaker, were both asked to speak at the ceremony. Everett spoke for two hours; Lincoln spoke for about five minutes. Yet Lincoln's speech has become one of the greatest and most famous ever made in English, expressing in only a few words the central idea Lincoln lived for—the struggle to preserve a people's government.

- 4 Helen Kellerがどのように言葉を学習したのか、英文にそれぞれ書きなさい。

Miss Sullivan began by trying to discipline Helen and by teaching her words. She used a manual alphabet for the deaf. Because Helen could not see, Miss Sullivan spelled words in the palm of Helen's hand. At first, Helen could not understand the connection between objects and the words Miss Sullivan was teaching her. Finally, she did come to understand this connection.

- 5 ワシントン大行進と呼ばれる運動が起こった原因とその運動の経緯とさらにその運動がもたらした結果を書きなさい。

In December, 1955, a black woman was arrested. She had refused to give up her seat in a bus. Black people got angry. They refused to ride buses. Over the many months that this fight went on, Dr. King was arrested. But it did not stop him. At last the fight was won.

Dr. King believed in peaceful methods. He organized many peaceful marches and demonstrations. In August, 1963, he led a march to Washington, DC. He walked at the head of 200,000 people. They demanded full employment and equal treatment for all Americans. He wanted all of America and the whole world to understand his cause and to join in it.

Dr. King's methods brought many important gains. The famous Civil Rights Act of 1964 was passed. But he was not satisfied. He always looked beyond the immediate goals.

Teaching Reading Skills (2)

— Lessons Focusing on Reading Process —

Toshiko Sato

The purpose of this study is to examine which activities are necessary for reading comprehension.

The procedure for this study is as follows:

- (1) I conducted experiment in reading comprehension on sixty-five students.
- (2) I classified my lesson procedure into four activities; (a) practice of oral reading at a normal speed (b) silent reading through the text (c) listening to the instructor's model reading in order to have a good grasp of the text (d) asking and answering questions on the text in English
- (3) I explored the students' own assessment of success strategies in reading.
- (4) I analyzed the results of the experiment and exploration.

The results of the consideration led to the following conclusions:

- (1) Practice of oral reading at a normal speed is an effective one for oral reading.
- (2) Practice of oral reading at a normal speed is necessary for fast reading comprehension.
- (3) Asking and answering questions in English is the most important activity for reading comprehension.

Key Words: Reading Process, Reading Comprehension